

# 西濃農林事務所の普及活動状況

平成28年2月24日現在

## 今月の重点活動

### ■普及・営農指導活動成果報告会 「西濃農業の活性化をめざすセミナー」の開催

2月3日に、西濃総合庁舎大会議室において標記セミナーを指導農業士や営農組織代表者などの管内農業経営者のほか、JA、市町村など関係者を含め130名の参加を受け開催した。今年度は、TPP協定交渉大筋合意を受け、大きな転換期を迎える農業情勢の中、西濃農業を支える新たな担い手の確保・育成を促すとともに、安定した農業経営の促進啓発を目的として開催した。



【成果報告の様子】

農業普及課から、トマト新規就農者の育成と新品目ブロッコリーの地域定着支援に係る活動報告を行った他、農業普及課と連携したJAの新規就農者育成活動が報告された。また合同会社いちごいちえ総合経営プランニングの遠山敬司氏を招き、『「しぶとい経営」へのはじめの一步』と題し、継続性のある安定経営を目指す農業経営体となるポイントについての講演を行った。

## 売れる農畜産物づくり

### ■トマト 海津トマト部会の全員研究会の開催

JAにしみの海津トマト部会で第2回目の養液栽培（ポット耕）研究会が1月29日に就農支援センターにおいて開催され、ポット耕に関心の高い生産者等約30名が参加した。ポット耕栽培での今後の栽培管理についてと就農支援センターにおける地上部の環境管理について就農支援センター担当者より説明があった。地上部の環境管理については、生産現場においても取り組みが進んでいるため、飽差管理について関心が高かった。

海津トマト部会では2月19日に全員研究会、2月24日に池辺トマト組合研修会が開催され、春に向かっての栽培管理について農業普及課より説明した。

### ■いちご いちご「若手生産者の会」交流会の開催

26年度に西濃地域の若いいちご農家の間で結成された「若手生産者の会」の第3回交流会を2月2日に開催した。会員8名が海津市に集まり、いちご新品種「華かがり」の実証ほ場を見学した後、就農支援センターに移動し、岐阜県のトマトの新規就農者の研修の制度について説明を受け、ポット耕栽培のほ場を視察した。いちごとトマトでは作目は異なるが、センター内では積極的に質疑応答が行われた。



【就農支援センター説明会の様子】

### ■マコモタケ 栽培検討会の開催

大垣マコモタケ研究会は1月26日に第4回総会、2月9日に運営会議（栽培検討会）を西大外羽集会所で開催した。平成27年の販売金額は1,620千円（昨年1,249千円）であった。43aの面積で栽培し、反収は379千円/10aとなった。栽培検討会では平成27年の問題点を出し合い栽培管理の改善について協議した。農業普及課は平成28年産の肥培管理について提案指導を行った。

## 戦略的な流通販売

### ■そば そばを使った地域おこし 「玉倉部そばクラブ」

関ヶ原町玉地区では、地元営農組織が栽培したそばを、関ヶ原鍾乳洞入口の遊休施設(食堂)を使って食材提供し、地域おこしに繋げようとする動きがある。

昨年11月に発足した任意組織「玉倉部そばクラブ」が加工・販売を行う予定であり、販売予定のメニュー内容やそばの味等について幅広く意見を聞くため、2月15日に関ヶ原町北部集落センターで試食会(求評会)が行われた。

ボリュームや麺の硬さ、つゆの味等について、出席者からは忌憚のない意見が寄せられ、活発な議論が行われた。販売は4月29日からを予定しているが、今後この動きと連動して地元活動組織及び営農組合(関ヶ原北部営農組合)の法人化が検討されているため、必要に応じ支援を行っていく。



【試食会(求評会)の様子】

## 多様な担い手の育成・確保

### ■後継者育成支援 家族経営協定締結式(海津)

2月2日に海津市役所にて家族経営協定調印式が実施された。実施者はトマト研修生(2期生)1戸で、今回、共同経営者として、夫婦2者による家族経営協定の締結がなされた。農業普及課、JAにしみの海津営農経済センター、海津市が立会人として署名し、激励の言葉を述べた。夫婦各々からトマト経営を開始するにあたり、二人で協力し、地域に後継できるようなしかりとした経営が営めるように頑張りたいと抱負が語られた。

### ■集落営農組織法人化支援 第1回 松尾営農組合法人設立準備委員会の開催(関ヶ原町)

集落営農システム確立サポート事業の対象地区である関ヶ原町松尾地区において、1月30日に松尾地区集会所を会場に第1回目の営農組合の法人化設立準備委員会が行われた。

初めにJAにしみのから法人設立までの一連の流れと、その過程で必要になる書類等について説明が行われた。出席者は熱心に聴講し、説明終了後は構成員要件や農地集積のやり方に関する質問を中心に質疑応答が行われた。

農業普及課からは、松尾営農組合を自治会の一部門に位置付け、地域活性化・維持に向けた活動に貢献するという松尾地区の将来ビジョンについて提案、説明を行った。



【設立準備委員会の様子】

### ■集落営農組織の法人化支援 法人化検討会の開催

2月9日に神戸町の北一色営農組合で第2回の法人化検討会が開催された。北一色営農組合は作付面積が22haと経営規模が小さく、小区画のほ場が点在し、排水性が悪く麦・大豆の単収が低いため、法人化後の収益の確保が問題となった。すでに役員やオペレーターの確保が困難な状況となっており、近隣に合併の相手となる営農組織もないため、他の担い手組織に一括して農地を委託し、2階建て方式の1階部分へと機能を縮小し、場合によっては委託先の担い手組織から部分作業受託を行う形態へと転換を検討することとなった。法人化は挫折する結果となったが、今後も町役場、JAにしみの神戸営農経済センターと連携して支援を継続する。